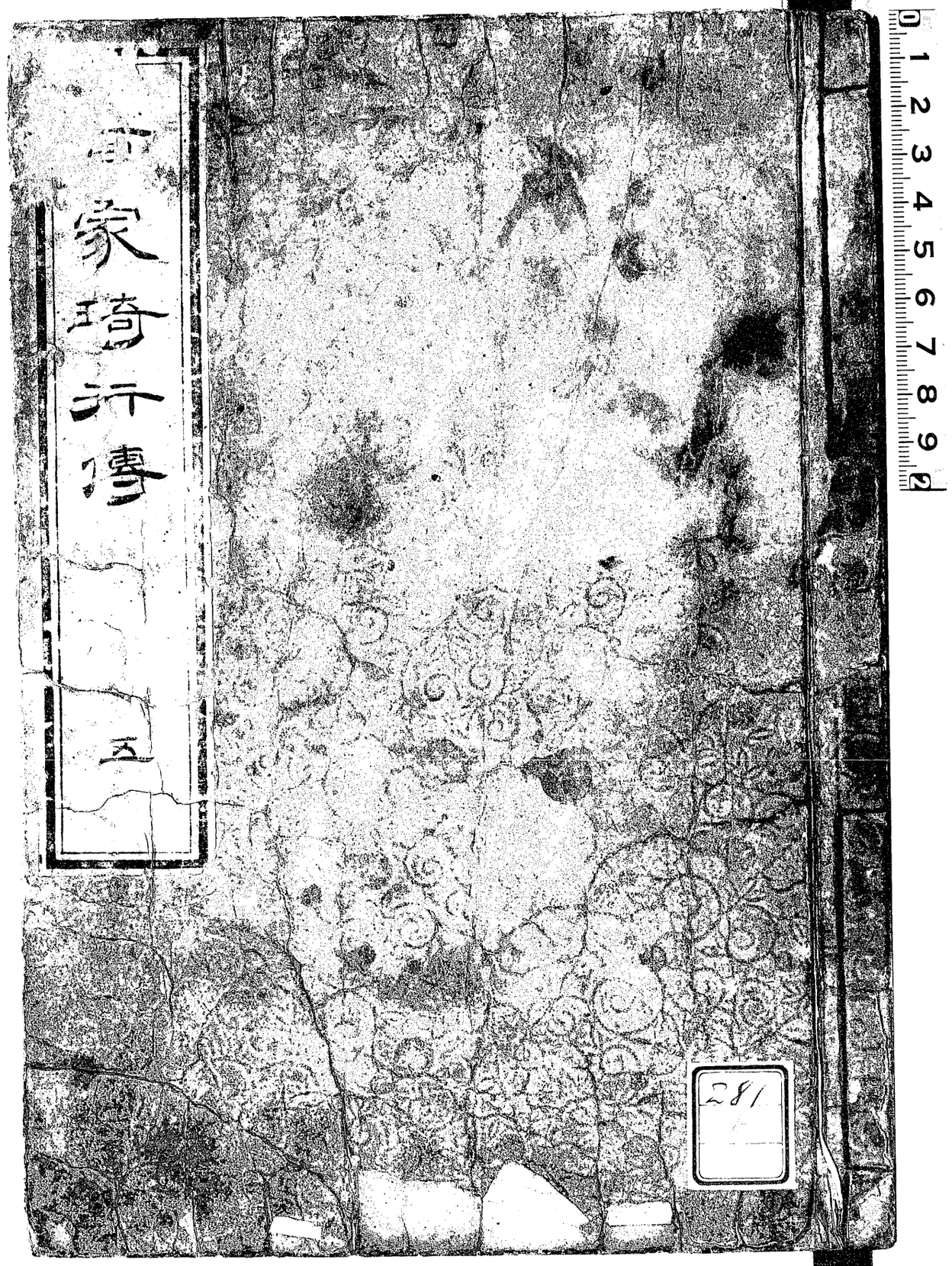
言うけ〳〵過ゆ〳〵と這家のあるじ門内よりうち呼いて彼男と
よびとゞめ今其方のもとに云〳〵る商人を何者ぞと
問ゝまゝ男うち〳〵彼老商人を窓ゟむこう行と号て異
物ゆえ待うと云〳〵去往うち偖ゟ閔内のびし村竹ゟ
有ゝるゝゝ這人大いに嘆息しうち當日名られゝいうう
主人村竹ゞ家ゟ尋ねゆ昏のわゞ無礼あり〳〵事代
只管ゟうび言〳〵うち斯〳〵這人も亦歌ゞ詠て〳〵
友四五人かゝして一冊の歌すゝと制へ鮮ゝき魚一尾代
そゝ〳〵村竹ゞ方へ添削とうひ越〳〵うち村竹件一ゟ朱書
あゞ〳〵加へて奥ゟやうゞも老て敷島の道ゟうゝ〳〵万望ゝ這

東都九山道子一の人ゟ
うゞ人ゟ物ゟ琦ゞ
言うゝ人ゟ〳〵ゟ時ゟ大
歌〳〵或人ゟ老ゝ伝
百尺横ゝ笑ひ給ゝ
世ゝ世界人間世
ゟうゝ人間世ゟ知ゝ
ゟうゝ人ゟ〳〵ゟ知ゝ
ゟうゝ〳〵ゟ〳〵ゟ
ゟうゝ云〳〵ゟ
百四ゟの時死ゝ
世人間ゟ
長ゟ〳〵ゟ
伝者ゟ
ゟ〳〵ゟ
ゟうゝ
とうゝ
ゟ〳〵ゟ
ゟ〳〵ゟ

后ゟん哥の撰ゞ敕〳〵給うゞ〳〵と写著て
螢ゟ人雪ゟ人ゟ
と詠ゟ〳〵ゟ返〳〵ゟ這老人実ゟ一時人ゟ〳〵千服のゟ〳〵
き物語あゞゞゞ暑〳〵ゟ文化のゟゞゞ八十二歳ゟ〳〵死去
同處智学院とゟ〳〵る禅寺ゟ葬る

281
4

百家琦行傳四之巻終


家塔行傳
五
281

本久

百家琦行傳五之巻目録

○女夫　鍛治
○孝子　禄助
○猪之助
○烟曲　弥平
○桔梗屋　阿園
○烈婦　阿雪　奴の小万
○峻山　和尚

54368
昭 28 3.31 校
寄贈
図書館

○行水政右衛門
○有難與一兵衛

百家琦行傳五之卷

八島五岳輯

○女夫鍛冶

泉州岸和田五軒家町といふる處に浦田治右衛門といふ鍛冶職人あり久しく至て叮嚀なる癖あり這者両親と離れて住居り毎宵夜業とあまひくよりて親の家に入て門うちに居る小僮に今よりあべと做果さつて御きげんよく安歌あるべし我們も是より臥侍ふと云へば然しては夫婦とも臥房に入りぬ朝まく疾起いでゝ親の許に入て唯今起て侍ふ御きげんよく侍ふやと云へば飯り夫より朝飯を吃

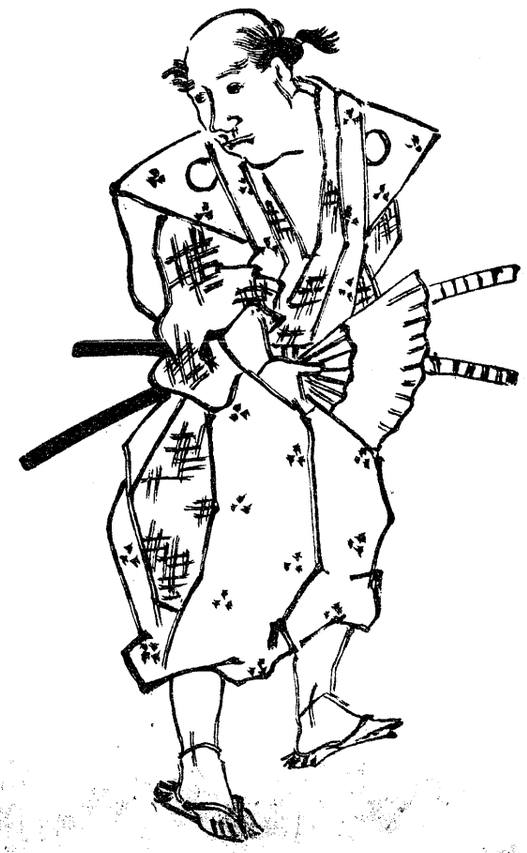
し家業をはげむ奈何ある風雨にても毎夜毎朝かく事
あり時に夜業三更四更に及ぶ事もあり然れども
猶行く門うちを例のごとく云て飯る親も法と是を聞
ざる間も窃に家より家へ往来すること二丁許にて
いやく近くいあるべく數十年ゞ間一日も慶ぶ事なく両親
死後やうやく止文化六年九月廿九日治右衛門八十二歳にて
死去に同處寺町圓教寺とへる法華寺に葬に女未鍛冶
へる謂いまゞ極て譯ある事なるべし

⊙孝子禄助

南紀和哥山南河呂地柳町とへる處に禄助とへる者あり

商客の子ゆゑ父ふもやく別も老母一人を養へと生質魯
鈍ゆゑ活業の道とゝぶ詮方なくて人家の軒ふ立て米
銭をこひ得て其母をやしなふ孝心太甚厚し常ふ古麻上
下のうへ小紋ちぐひるを着し竹ふてたゝく髪を
塗る鞘木ゆゑ作る鍔のとゝれ両刀を横ゑへ破る
扇をもち何とも訳ぬうゝと唄ひ人家の簷端ふ立て物
をこふ然ども餘の乞児あぐかうう何時まぐも門ふ佇立
夏なれ一ゑ唄ひくゝ忽ち亦外の家ふゆく御城下の町
家ふくも渠ぐ親ふ孝心あるゆゑ禄助ぐ来ると待く物
をこふる夏なり朝ふなるやく起て飯を焚て母ふあゝ

其船も食し然して市町をとりひあるき夕ふ早く飯
をゝ夕餉を制し老母ひとりを養ひ其後母やまひ
ふかくゝ竟ふ空く成るもゝ禄助ひくゝ歎きかなしを葬ひ
送るゝ叮嚀ふとりいとあく累七の法要も僧を請ぐて供
養をあし竟ふ三年ゝ法支まで仔細ふはゝあるゝ或時禄
助あひ長屋をもゝ人々ふ語て曰くゝ当廿八日ふ
死去いゝゝべく侍ふ跡の處をゝくゝ史まるゝ葬式
ぐやく雑費の料い延持いゝゝわべ探いぐて御つのひ給
べしゝと史あるゝるゝと相連家の人々まゝく凱子ぐ何事
をゝのふあゝんと只管わゝひて止ふゝゝ斯て禄助すゝ



〻病つれ其いひ〻日ハ死ハろう衆人大ハよりさ這ものの此世てをかく浅ましき暮しハもと來世へ寂光浄土み生ぐるあるべしや個々會ひく家の裡と探し見ま一固の筐乃中ハ金三両あり外ハ銭も些しへあるるみぞ見ハ〻万般の費用とろう法ろあひ佛支それ〻ハ〻あ〻北阿呂地専念寺とくる寺ハ森とろう

○猪之助

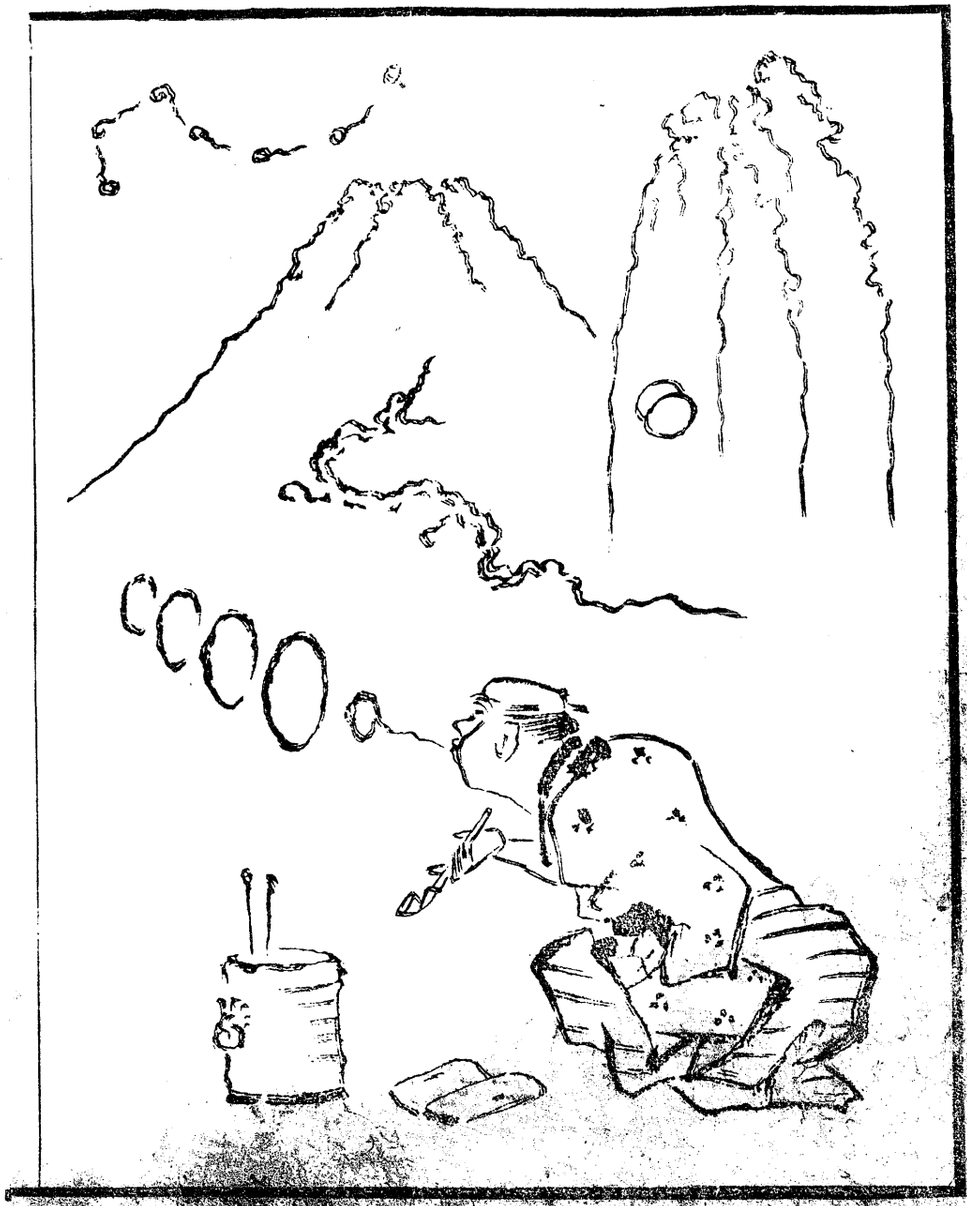
安永の頃江戸尾張町邊ハ〻裏屋住するいやしれ者乃子ハ〻猪のとくるより在ろう極て猪之助と呼〻べ〻這猪之年いまゞ十歳ふるろる頃ちれあろう

の陶器物うる家のほとりし其納屋のかたはらに外の童們と
倶に遊び居たり大いなる水瓶いくつもならべ置たる間にかく
れあそびして居るを陶器家のあるじ是を看て大いに叱り
活業のさまたげなり外へ去て遊ぶべしと云ければ這猪之
はかねて口怜利なれば爰にあそぶにあらず我爺さんの水瓶
を買て来よと云ましたゆゑ買に来ましたその水瓶をくれひ
いくらほどかとして云ふたる主人曰く這小童らちがひし奴
うぬ你が親なんぞ童に水瓶をかひて来よと云べきや這水瓶
大人ほどり一人にてハ持ちぬる物なるに怎生你にかひて来よ
といふべき謂なしといへど猪の曰くいかにも我いかなる重き

ものにても能擡あぐるなりといふに主人聞て你もし這
水瓶を一人して家にもて行ならば價ハ一固八銭にて負け
てやるべしといふに猪之是を聞て我一人にてもて行べし
さあらば八銭に賣にちがひなきや陶器家が曰くいかにも
る賣べし但し大勢にて運ひてハならぬぞ成ぬなり猪
が曰く何ぞ人とるものかハんや我まづ銭とりて来るべしと
家に跑かへりて母親に銭八銭もらひ再般せとものやの店へ
来りけるぞ價八銭をわたすべしといひて主人に與へ是より彼
水瓶ハ我のものなり我一人にて運ひ行なりと云つゝ路上より手頃
の大石をひろひ来りて彼水瓶に打つけたちまち瓶ハくだけて散乱す

斯く此の通りの片々と拾ひ集めく持るケどづ荷ひ我家
へたどりるぞ五六度みしてをみ運びとんで然して内と銭
八銅のしひ来りかの陶器家まへ人て今一固うひとるべと
いへ陶器屋大いふ怒ぐろき你破ひしてたぞ八銭でて
賣べしといふ猪之ぞ曰く你大人み似合ひ比奥の事をいふ
者うみ買とる上ら我りのあり破うぞるは内ぶ你ぞ預ら
ふあしば一人して這家へ外の家へ除へ人とたぶ
し幾固ぞも八銭づみ買とるありといひて店頭ふ居り
て揺ば這しれ家の前面人ぬわく立集てづとく猪之ぞ方
を見員ふありて主人ぞ言語の過失とわしふ主人わしく困

じゝ〳〵千般とうひまつらへ種々の菓子ありどいつ〳〵へ〳〵漸々
こわり飯しろう抑這猪之奈何ある者の子あるや知ば
舟とうて人と救しし司馬温公が智仁かとみへ有ばか
へ〳〵も然ども〳〵精潔〳〵物もち重ゝ其後〳〵い
かゞ成ゝんまゝば

○烟曲弥平

寛政のゝ頃備前の國に人のゝ〳〵いく俗称弥平といふ者
諸國をいろ〳〵烟草のゝうみく千般の姿繪をえがい〳〵
て人ゝ看ゝる者あり〳〵其ゝ齢ハ五十ばかり〳〵覚ゝう
し大いなる火皿の煙管ゝ煙草ゝ〳〵〳〵〳〵烟ゝ〳〵吸